



国宝「普賢菩薩騎象像」
Samantabhadra on an Elephant
(National Treasure)

入場料

一般 800円(700円)
※特別展は 1000円(900円)
大学生・高校生・65才以上 500円(400円)
※特別展は 800円(700円)
年齢を証明できるものをご提示ください
小・中学生無料
土・日曜日の高校生以下の児童・生徒ならびに同伴の両親・教師は無料
()内は 20名様以上の団体料金
障害者並びに付き添い一名は無料
*ホテルオークラ東京とのセット鑑賞券
喫茶券 1800円/食事券 3300円
*企画毎のリピーター割引制度(200円引き)を設けております

観覧時間

10:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日

月曜日(休日の場合は開館)、展示替期間、年末年始

※展覧会内容、会期、出品作品等が変更になる場合があります
尚、期間中に展示替を行うこともありますので、
事前にご確認いただくか、ホームページをご覧ください

ミュージアムパスポートのご案内

大倉集古館では、美術を愛好されるみな様にもっと楽しんでもらえるよう
ミュージアムパスポートのメンバーを募集しております
入会金 3,000円
詳しくはお問合せください (TEL 03-3583-0781)



交通案内 東京メトロ 南北線 六本木一丁目駅より5分
日比谷線 神谷町駅より7分
銀座線・南北線 溜池山王駅より8分
銀座線 虎ノ門駅より10分



〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3(ホテルオークラ東京本館正面玄関前)
TEL 03-3583-0781
ホームページ http://www.shukokan.org

展覧会案内 Exhibition schedule

2013年4月～2014年3月

公益財団法人 大倉文化財団
大倉集古館
OKURA MUSEUM OF ART

大倉集古館の沿革

大倉集古館は大倉喜八郎(1837～1928)が創立した美術館である。翁は明治維新以来、新興日本の産業の振興、貿易の発展に力を尽くし、育英、慈善事業にも功績が多かった。一方文化財の海外流出を嘆いてその保護とわが国文化の向上に努めた上、50余年にわたって蒐集した多数の文化財、土地、建物及び基金を挙げて寄付し、大正6年(1917)8月に財団法人大倉集古館が誕生した。わが国では最初の私立美術館である。

しかし大正12年関東大震災により、当初の建物と陳列中の所蔵品を失ったが、幸い倉庫は無事であったため、残された優品を基本とし、伊東忠太博士の設計による耐震耐火の陳列館を建築して、昭和3年(1928)10月再び開館し、その後所蔵品も増加して復興の成果を挙げた。さらに長男喜七郎(1882～1963)がその遺志を継いで、館の維持経営に絶大な援助を与え、また自ら多年蒐集した名品、特に近代絵画多数を寄付することで館蔵品の充実を計った。

第二次世界大戦に際しては幸いにも空襲の難を免れ、昭和35年に財団法人大倉文化財団と改称、同37年に第一次の改装工事を、また平成9年には創立80周年を記念して、全館の復元と設備の近代化を計るため大改修工事が行われた。建物は中国の古典様式を生かした名作として平成2年に東京都の歴史的建造物に選定され、平成10年には国の登録有形文化財となった。

所蔵品は日本をはじめ東洋各地域の絵画、彫刻、書跡、工芸など広範にわたり、「普賢菩薩騎象像」(平安時代)「隨身庭騎繪巻」(鎌倉時代)「古今和歌集序」(平安時代)の国宝3件、13件の重要文化財及び44件の重要美術品をはじめとする美術品約2500件を保管している。中でも著名な「普賢菩薩騎象像」は常時陳列されており、近隣の大使館やホテルオークラ東京に滞在の多くの外国人にも、東洋美術の粹にふれる好機を与えている。

OKURA MUSEUM OF ART

Okura Shukokan is an art museum founded by Kihachiro Okura. Since the Meiji Restoration in 1868, he devoted himself not only to the development of industry and foreign trade in the newly rising Japan, but also made a great contribution to fostering educational and welfare services in the Meiji Era (1868-1912). For him it was a tragedy to see so many of Japan's cultural treasures leaving the country. He, therefore, willingly offered himself as a guardian and promoter of our original culture, and eventually donated to the public a mass of cultural property which he had collected during an expanse of over half a century since the Restoration, together with land, buildings, and supporting funds. This is the Foundation called the Okura Shukokan, established in August, 1917. It was indeed a forerunner of private art museums in Japan.

Having been established at this time, this museum was exposed to the Great Earthquake and fire of 1923, and a vast quantity of its collection was lost to us. However, renewed efforts were made under the direction of Dr. Chuta Ito, to reconstruct a new quake-and fire-proof gallery, which was opened to the public in October, 1928. The museum, containing original items which escaped the catastrophe together with additions made since that time, was thus restored.

Kishichiro Okura, who acted in accordance with the will of the deceased Kihachiro, gave generous support to the maintenance of the gallery during and after World War II. He personally donated a large amount of important cultural property which he himself had collected during his lifetime, which constitute a substantial addition to the bequeathed wealth of the museum.

The collection consists of about 2500 works of art. The entire collection includes 3 National Treasures, 13 Important Cultural Properties, and 44 Important Art Objects.

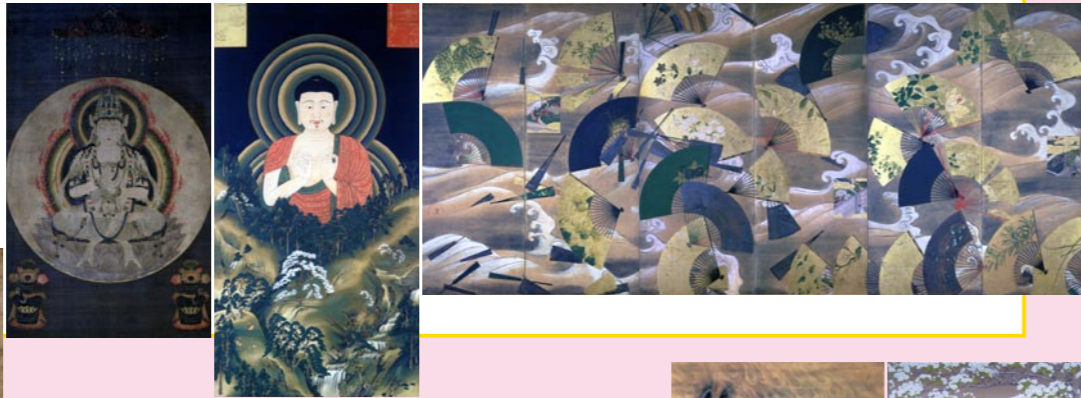
館蔵品展

大倉コレクションの精華Ⅰ

—中世・近世の絵画—

2013年4月6日⑤～5月26日⑥

大倉集古館の所蔵品の内、中世から近世の絵画を中心に展覧いたします。仏画、狩野派、屏風絵など、コレクションを代表する名品をご紹介します。また、国宝「隨身庭騎絵巻」を期間限定で特別公開いたします。



伝わる技 伝える技

第4回 新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会

6月8日⑤～7月28日⑥

本展は開催に先立つ、公益財団法人日本刀文化振興協会主催「公募コンクール」の審査結果を基に、作刀、研磨、外装の各分野から、上位入賞作品を一堂に展示致します。現代刀職者が日々研鑽し、後世に向けて発信し続けることが、日本を代表する刀剣文化の継承を牽引することになるでしょう。また、集古館所蔵品から「武家のしつらえ」をイメージして、「書棚」や「硯箱」「香道具」を同時に展示致します。



併催展覧会

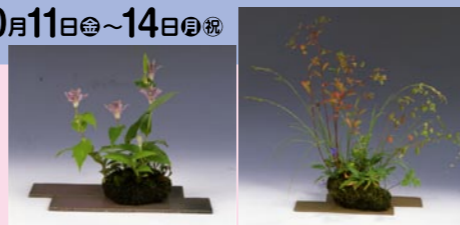
第19回 秘蔵の名品 **アートコレクション展**

8月中開催

会場：ホテルオークラ東京 別館「アスコットホール」
※期間中は「大倉コレクションの精華Ⅱ—近代日本画名品選—」展との共通券も発売しております。

第23回 **景風展** ～山根景子個展～

10月11日⑤～14日⑧祝



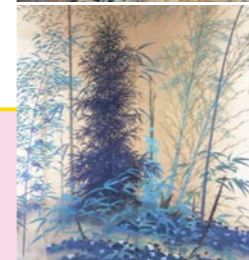
館蔵品展

大倉コレクションの精華Ⅱ

—近代日本画名品選—

8月3日⑤～9月29日⑥

大倉財閥を継いだ長男・喜七郎は、父の残した蒐集品に更なる息吹を加えました。同時代の新しい画家たちを擁護し、その発展に尽力を続ける中で、昭和5年に実現させた「羅馬開催日本美術展」は喜七郎による芸術支援の白眉となりました。本展では「ローマ展」に出品され世界に向けて日本の美を印象づけた近代絵画の優品を中心に、明治から昭和にかけての日本画コレクションを紹介します。



特別展

描かれた都 ^{みやこ} —開封・杭州・京都・江戸

10月5日⑤～12月15日⑥

日本と中国の絵画において都市の景観や風俗などを画いた作品を中心に展覧します。主に中世から近世の両国を代表するメトロポリスであり、画題としても好まれた4つの都、開封、杭州、そして京都、江戸をテーマとして、それぞれの都市の絵画化されたイメージが、互いに影響し合っって成立する様を見てゆきます。



館蔵品展

大倉コレクションの精華Ⅲ

—工芸品物語 美と技が語るもの—

2014年1月2日⑤～3月30日⑥

大倉集古館の所蔵品は、その分野が広範に亘っていることが特徴の一つであります。本展ではその中から工芸に焦点を絞り、優品を陳べながらそれぞれの持つ形やデザインに秘められた意味、また技の伝承についてなどをわかりやすくご覧頂きたいと思っております。漆工芸品、染織品、金工品、刀剣、陶磁器と、様々に取り合わせ伝統の香りを感じられる展覧を行います。

